

# 故 名 譽 員 工 学 博 士 吉 町 太 郎 一 先 生 を 想 う

北海道大学名誉教授 吉町太郎一先生は、昨年2月風邪がもとで心臓性喘息を併発して北大病院に入院せられ、このときは幸いに危機を脱して同年4月にはお元気となって退院され、以来札幌市郊外宮の森の自宅で病床生活をつづけておられましたところ、去る3月18日起居中に貧血のため卒倒せられて昏睡状態に陥り、23日私どもが慈父と仰ぐ一代の碩学は87才の高令をもってついに幽明界を異にせられました。



\* 一端をたどりつつこの一文を草して追悼の詞に代えたいと思います。

先生は明治6年旧弘前藩士 吉町官輔氏の長男として弘前に生れ、第一高等中学校を経て明治31年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業、ただちにその助教授に任ぜられて明治34年には橋梁学研究のためドイツおよびアメリカに留学を命ぜられ38年に帰朝されました。この間ベルリン工科大学ミューラー・プレスラウ教授およびライスナー博士の研究室で橋梁理論の研鑽をつ

まされ、米国では同研究室の紹介のもとに主として各地の橋梁設計事務所で実地の設計業務に当り、かくして精深な西欧流理論と明快な米国流設計法との調和融合を深く体得せられたのであって、これがその後の先生の学風の基本となったのであります。帰国とともに名古屋高等工業学校教授に任ぜられ43年には先に発表せられた固定アーチの一般理論に関する業績によって工学賞を授与せられました。44年には九州帝大教授に任ぜられ工学博士の学位を授けられ、大正10年には同大工学部長に補せられましたが、この間において鍛冶橋、八ツ山橋等に関連して、大正初期のわが国の不静定橋梁の黎明期において啓蒙的示唆に富む論評をなされております。

大正8年北海道帝国大学に工学部創設の事業が緒につくや、先生はその創立委員として当初より参画して大正13年より昭和6年に至る7年間は其の初代工学部長として文字どおり寧日なく尽瘁せられ、同学部が今日あるの基礎を確立されて同11年には停年退職して名誉教授となれましたが7年からは学術研究会議会員としても活躍されました。この間における先生の橋梁学に関する思想はいよいよ円熟せられ、従来の構造力学的な殻を突き破って、あるいは橋梁振動論に、あるいは大径間吊橋の二次理論に、あるいは座屈論にすでに昭和初頭の先生の講義は教壇の上に繚乱として花を開き、学生たちは期せずして学問の新しい世界的動向とその価値を感觸し、思索することを体得したのであります。退職後も先生の研學は孜々として続けられ14年には可撓性索条に関する研究によって土木学会賞を授与せられました。これらの理論と設計法に関する先生の識見は、27年に出版せられた名著「鋼橋の理論と計算」において可動橋編をも包含する広さをもって深く講述されているのであります。先生の研究はさらに新展開するかに見えました

が工学に関する学府の創設に練熟された先生は同年請われて初代の室蘭高等工業学校長として再び教育事業に戻られ18年同校を退職せられるまで老令をも省みず管々として現在の室蘭工業大学の基礎を築かれたのであります。

橋梁の実施計画に先生の参画指導を得たものは枚挙にいとまありませんが、その代表的なものとして旭川市旭橋をあげることができま

きます。この Balanced framed tied arch の均整のとれた美しい骨格と構造法はよく先生の指導力の卓越さを示し、先生が良き理論家であるとともに良き設計者であることを如実に物語るものであります。21年には先生はまた北海道綜合開発調査委員会運輸交通専門委員長として終戦直後の窮迫時代において綜合開発の推進に努力を傾けられたのであります。

このように先生の功績は广大でひとしく敬仰するところでありますが、御不幸にも16年には御長男に、ついで令夫人に先立たれて4人の幼い令孫をかかえて長男未亡人とともに寂しい苦難の生活が永くつづいたのでありますが、先生の和雅たる温容は終始変わるところがありませんでした。一昨年北大工学部開学35周年に当り同窓生を中心として先生の工学部創設の功勞を記念して胸像建立期成会を結成し、工学部前庭に先生の寿像を建立して昨年5月28日除幕式を行ないました(写真)。また同時に期成会は基金を工学部に寄贈して吉町先生記念賞牌(写真)を設定して工学部全学科の優秀学生に贈ることとし、本年3月25日の卒業式を期して第一回の授賞が行なわれたのでありますが、その2日前に先生はこの賞牌をいただきながら最後の息をひきとられたのであります。

先生の足跡をたどりつつ先生への追慕の情は連綿として尽きるところを知りません。ありし日の慈父のごとき先生の温容を偲びつつ、深く哀悼の意を表しますとともに、謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。【北海道大学教授 工博 今 俊 三】

吉町先生記念賞牌



表 面



裏 面

北大工学部前庭にある  
吉町博士胸像



昭和**36**年度

# 建設機械展示會

5月19日 — 5月29日

東京都晴海ふ頭前広場  
入場無料

主催

日本建設機械化協会

**J. C. M. A.**

後援 建設省、農林省、通商産業省、科学技術庁、経済企画庁、日本国有鉄道  
北海道開発庁、日本道路公団、農地開発機械公団、東京都

